

かんたん秋作野菜の栽培

— 大根, 白菜, ほうれん草, ブロッコリ —

＜概要＞

栽培の学習をしようとしても、「場所がない」「時間がない」「道具もないし、予算もない」どうしよう。という声がよく聞かれます。でも、昔は猫のひたいほどの空き地を見つければ、野菜を作っていたものです。本校ではプールサイドの空き地を利用しました。夏は、トマト、キュウリ、なすなど。冬は、大根、白菜、ほうれん草、ブロッコリなど。生徒にも好評です。特に冬に収穫する秋作野菜は、水やりや雑草取り、病害虫の被害も少なく手間が省けます。

大根の栽培

店頭に並ぶほぼ90パーセントが青首大根である。水分が多く、甘みがあるのが特徴である。耐病性の「秋晴れ」を使った。種まきの時期は、佐賀の場合、9月下旬くらいで、収穫は11月下旬にできる。ほとんど消毒の必要がなく、大きくて見栄えがするので生徒にも好評である。

(1) 栽培する場所を見つける

日当たりがよく、水はけがよい場所。生徒が気楽に見にいけるところが最適である。水道などが近くにある方がよい。

(2) 土作り

校舎の片隅などで栽培に適した土がないところは、JAなどから堆肥を買い、土作りをする。(1t 3,000円くらい。消石灰などを入れ、よくかき混ぜて、半年く

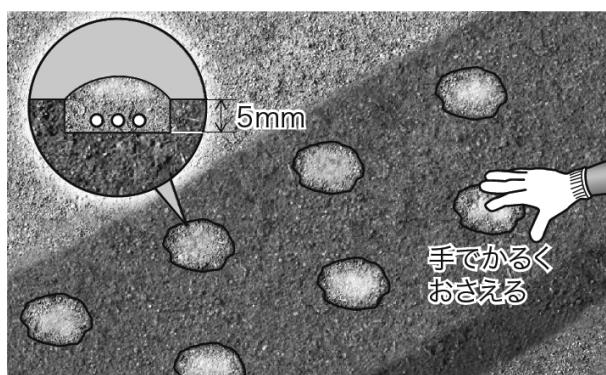


らいたつとよい土になる)

種まきの2～3週間前に、土作りをすませておく。幅70cm、長さ2mの畝を、深さ30cmくらいまで、深く掘り下げる。配合肥料30cc、苦土石灰30ccを全面に散布し、さらによく耕す。

(3) 種まき

点まきをする。紙コップなどで20cmくらいの植え幅に印をつけ、中に3粒ほど種をまき、土をかぶせる。



(4) 間引き・追肥

種まき後20日～25日が経過し本葉が5～6枚程になつたら、元気のいい苗1本を残して間引きし、化成肥料200ccほどを苗から少し離してまく。

(5) 病害虫対策

現在は、低農薬の野菜作りが主流である。特に生徒に持つて帰つもらうため、消毒しない方がベストだが、アブラムシやヨトウムシの被害がでる時には、オ

ルトランなどの水溶液を、苗が小さいときに散布する。毒性は、2～3週間ほどで消えるが、いつ、どれくらいの濃度で、どれだけ散布したかの記録は必ずとっておくようとする。

(6) 収穫

収穫は、適宜行う。生育には差が出るので、家族の人数や用途に合わせて持ち帰ってもらう。栽培記録をまとめさせ、感想などを書かせる。

指導計画

	内 容	時間
オリエンテーション	農作物とは	1
植物の生育と環境		3
栽培計画		1
土作りと種まき		1
水やり、雑草とり	授業の前後 20 分×4	
施肥、消毒	授業の前後 20 分×1	2
収穫とまとめ		2
		10

その他の野菜

栽培する場所にまだまだ余裕があるならば、その他他の野菜に挑戦してもおもしろい。白菜やブロッコリなどを種から育てるとき、その成長ぶりに驚く。

白菜とブロッコリ

白菜とブロッコリは、ポットを使って苗を育てた。白菜は黄色芯系のものが人気がある。耐病性があり、収穫が早い「郷秋 60 日」を使用した。

(1) 種まき

種は、どちらも 8 月 20 日ごろ、ポットに 4～5 粒ほどまく。土は種まき用の培養土が売っている。4～5 日で発芽するが、はじめは、ひよろひよろの状態で成長するのでポットに土を入れすぎず、間引きをしながら、土を加えていった方がよいと思う。

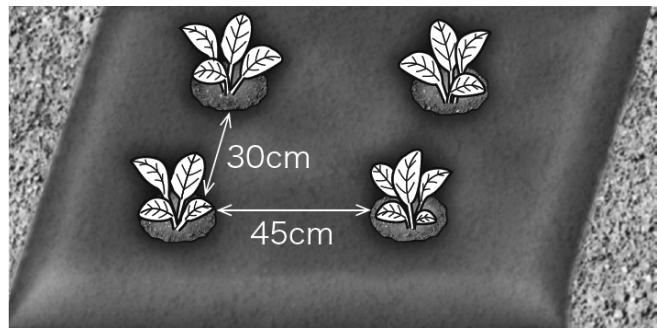
(2) 土作り

白菜やブロッコリは、地力が必要なので、元肥をし

っかり入れる。幅 70cm、長さ 2m、深さ 30cm の畑に堆肥 2～3 リットル、配合肥料 300cc、苦土石灰 200cc を入れる。

(3) 定植

本葉 5～6 枚になったら定植する。黒のビニールマルチなどをしてると成長が速く、雑草取りがいらなくなる。



(4) 追肥

種まき後 30 日ほどたったら、マルチの両側に化成肥料をまく。

(5) 病害虫対策

白菜は、病害虫に弱く、特に高温や長雨にあうと病気が発生しやすくなる。アオムシ、アブラムシやヨトウムシなどの害虫について、葉を穴だらけにしてしまう。生徒に持って帰ってもらうのであれば、強い薬は使えない。木酢や忌避剤（除虫菊成分などの消毒剤）を芯の巻きはじめに使って予防する。消毒をしたときは、記録を必ずとておく。

(6) 収穫

手で押さえてみてしっかりしまったものから、収穫する。初霜が降りたら、外葉をひもでくるんで霜の害を防ぐ。

ほうれんそう

白菜と同じように土づくりをするが、苦土石灰はやや多めにする。種は筋まきにする。適宜、間引きをし、収穫する。

参考文献・参考Webページなど

体にやさしいおいしい野菜のつくりかた 農家のコツ教えます

加藤義松 白石好孝 西東社